

# 徳島子どもと教育

徳島県教職員の会  
〒771-0017徳島市川内町鶴島115  
黄金ビル 徳島労連事務所内  
TEL 088-665-6644  
FAX 088-665-2117  
携帯 090-2891-5189  
eメール dp12287892@pf.lolipop.jp  
2017年7月10日 218

## ゆきとどいた教育をめざす徳島県連絡会 総会と学習会を開催

6月24日、フレアとくしまにて、ゆきとどいた教育をめざす会徳島県連絡会の総会と学習会が開催されました。

総会では、事務局から2016年度の活動報告、2017年度の活動方針、新役員の提案などがあり、承認されました。総会後の学習会では、講師の井内哲也さん(教職員の会)が、「道徳の教科化で、子どもたちはどうなる? ~小学校道徳教科書の内容から考える~」と題して講演を行いました。以下は講演の概要です。



教科書展示に行ってきた。全編カラーで、書き込みをするノートが付いている教科書もあった。内心の自由が子どもにもある。

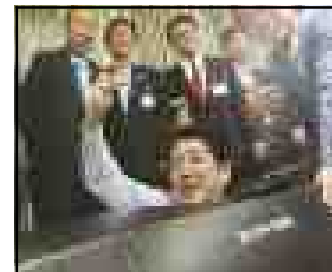
感想を書かない権利もあるが、書かないと評価ができない。今度の道徳は、考え深め、話し合う道徳だという。いじめる子といじめられる子のロールプレイもある。

### 道徳教科書の特徴

数冊の道徳の教科書を見て特徴的なことをあげていく。まず、1,2年生用のどの教科書も「礼」が載っている。真・行・草の礼まで載っている。こんな礼の仕方はみんな知らないのでは無いか。この行き着く先は「修身」の教科書に載っている礼「最敬礼」だと思う。また、子どもたちに学校は楽しいという価値を押しつけ、強制する教科書の中身になっている。不登校の子どもたちが読めば何が楽しい学校だと感じると思う。それから、「日本はすばらしい」の強制がある(例えば レトルトカレー、インスタント麺など)。日本の宝「富士山」も同じく「修身」の富士山につながる。いろんな形の日本賛美が出ている。学習指導要領に書かれていないのに国旗・国歌を載せている道徳の教科書がある。どの教科書にも日の丸の写真が掲載されている。子どもが小さいうちにすり込んでおくということだろう



「修身」には最敬礼



か。「修身」と同じだ。君が代の歌詞の意味は「日本の国が平和で栄えるように」という意味がこめられている」と偽造している。天皇の絶対的主義的統治が続くようにという意味を隠している。さらに国旗・国歌への気持ちの表し方を載せている。入学式・卒業式に起立をしない先生を攻撃する材料にもなる。この教科書には安倍首相も登場している。

教科書採択である教育委員会の議事録を掘り起こすと、「紙がきれい」「アトムが載っている」「パラパラ漫画が載っている」など面白さ重視で選んでいた。漫画の「ちびまる子ちゃん」も登場している教科書もある。まじめな教科書では、世界人権宣言を子どもたちにわかるようにしている。子どもの権利条約もある。

### 教科書によく出てくる人物

教科書によく登場するのがスポーツ選手である。なでしこジャパン、浅田真央、本当に若いオリンピック選手が目白押しとなっている。あきらめない心の持ち主として浅田真央さんは登場しているが、引退して本人の気持ちは本当にそうなのかわからない。この人たちはまさに日本を背負ってグローバル競争をする人たちだ。財界人も目白押しだ。ヤマハ、ホンダ、トヨタ、松下幸之助も載っている。年配の教育委員が教科書を見たときに、日本を発展させてきた人たちも取り上げているので、いい教科書だと思ってほしいのではないか。渋沢栄一も登場し、「青い目の人形」の話も載せている。平和教育にも使えると思うが、他の題材との並びを考えると国際協調=日米協力となっている。江戸城無血開城の勝海舟も出ている。勝は官軍が攻めてきたら江戸の街を焼き払うと考えていたのに、町人のことを考えて開城したと書かれている。これは科学的に見て本当のことが書かれていない。他にも、嘘でも子どもが感動したらなんでもいいという発想が見て取れる教材もある。道徳は子どもが感動したら嘘を書いてもいいのかと思う。徳島県で同和教育の教材としてよく取り上げていた「ひさの星」「花咲き山」も掲載しているが、この教材は弱い人たちを助ける話ではあるが、自己犠牲の教材でもある。命を投げ捨てたことを

美化している。西郷隆盛が出てくる教材も、命を投げ出す覚悟がなければ新しい国は作れないという内容。他方で、命を大切にという教材が出てくる。これでは、子どもは混乱するだろうと思う。キング牧師も出るし、二宮尊徳も出てくる。「修身」に出てくる天智天皇の漏刻の話があるが、今の教科書にも同じ教材がある。

## なぜ道徳が教科に？

そもそも道徳とは、自分が生きていく上で何が大事か自分で確立していくものだと思う。いくら国でも国民にこう生きなさいということは指図できない。それは学校で教えていくものではない。これが近代の学校制度である。ところが、戦前は教育勅語で心のありようや行動の仕方まで天皇が決めた(徳目主義)。それに基づいた全ての教科の筆頭教科が「修身」だった。敗戦とともに、これらはなくなった。が、戦後の民主主義を支える道徳は学級活動・学校生活全体で教えてくことになった(全面主義)。その後、学習指導要領に法的拘束力があるとして国家の教育権を復活させようとした。けれども道徳の教科化は2008年中教審の反対もあり、なかなかできなかった。しかし、大津市のいじめ問題があり、一定の世論の支持もあり、道徳が教科になった。

## 道徳教育で絶対やってはいけないこと

高知県で開催された道徳の研究大会の講演で、哲学を研究している学者は、「道徳で絶対やってはならないのは、徳目を覚えて、この通りにやりなさいとすることだ」と言っていた。改訂された道徳の学習指導要領は、「『特定の価値観を押しついたり、主体性を持たず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない』...との答申を踏まえ...答えが一つでない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う『考える道徳』、『議論する道徳』へと転換を図る...」としている。今回の道徳は、考える道徳・議論する道徳である。実は、部分的ではあるが、ここに今回の教科をめぐる安倍政権とこれまでの文科省の道徳教育との矛盾点が表れている。

## 「教育再生」と道徳

安倍「教育再生」のめざすのは、グローバル競争に勝ち抜くための大企業が求める人材(新自由主義) 海外でアメリカと一緒に「戦争をする国」の人材(国家主義)で、愛国心、道徳心が必要となる。これは経団連が求めていることと同じである。しかし、大企業が愛国心を語る資格があるのかと言いたい。賃金の安い国の労働者を働かせ、搾取し、巨大な利益を上げている企業が、ケイマン諸島などに安く税金を納め、税金を日本に払っていない事例がある。しかも、法人税が高いから日本から出て行く等と言った。どこに日本を愛せよと言う資格があるのか。

この道徳教科化で新自由主義政策でばらばらになった国をまとめるために愛国心を育て、全ての問題は個人の心の持ち方(心理主義)とし、社会の問題に批判の目が及ばないようにする。そして、自己犠牲を美化し、自分を抑え、他人のため、国のために尽くす生き方をさせる。この自己犠牲の典型的な教材として「天使の声」がある。これは埼玉県副読本に掲載されている。南三陸町で避難を呼びかけ、津波で犠牲になった女性職員の話である。最後まで呼びかけた声が天使の声だと言う。しかし、これには全くの嘘が入っている。最後に放送したのは男の人だが、この資料では隠している。しかも地元では天使の声なんて言わない。何十人も役場の人で死んで、そのことを美化する人は誰もいない。それに最後に虹が出たと書いてあるが、本当は虹など出ていないと言われている。安倍首相は演説で、この女性職員の方のように誰かが命を投げ出さないと国は守れないと言った。しかし、この教材はあまりにも創作があるので批判が出た。批判がなければ教科書に採用されたかも知れない。考え、議論する道徳と言っても、教科書の最後には特定の徳目で考え議論するように書かれている。これで本当に議論する道徳になるのか。

教科「道徳」の学習指導要領には「...主体性のある日本人の育成に資する...」とあり、

「人間を育成」ではなく、「日本人を育成」という自覚を持たせる中身となっている。道徳教育の徳目には、たくさんあるが、「協力」「連帯」等の徳目はない。「家族愛」として家族を取り上げているが、現実にはいろいろな家族のありようがあり、そういった家族の子どもたちはどう思うのだろうかと心配になる。道徳は年間 35 時間の授業時数だが、徳目の 22 項目は全て教科書に関連づけて載せておく必要がある。

## 道徳の教科書の見方

教科書会社は、教科書の作成に時間が無く、文科省の「私たちの道徳」をまねて作ったら検定に通りやすいと考え、手本にしたようだ。学習内容の背景となる学問がないので検定意見に反論ができない。指示通りに修正せざるを得ない。検定意見は少なかったがこれは、自主規制の結果だろう。しかし、出版社の良心だと思うが、「世界人権宣言」「東京大空襲」「原爆の子」など、人権・平和学習の教材として活用できるものもある。教科書を選ぶ上で ・子どもの学年や年齢にふさわしいか ・科学的視点から誤りは無いか ・型にはまった「心」や行動様式の押しつけはないか ・人権・ジェンダーなどの視点で活用できる教材が扱われているか ・「問題解決的な学習」として載っている問題が一定の方向に誘導するものになっていないか を大事にしたい。

様々な問題のある道徳教科書の中でも特に教育出版は問題が多い。安倍首相も登場しているし、日の丸・君が代の強制、大企業の人物も多い、「修身」に出てくる人物も多い。

## 今後の道徳の進め方

最後に、道徳教育をどう進めるのか。渡辺雅之さん(大東文化大准教授)の報告を紹介する。渡辺さんは、心の問題に持って行かない。外にベクトルを持って行く。「天使の声」の教材なら、「放送を機械で流せばよかったのでは」「防災センターがどうして津波をかぶるんだ」と。教科書に書いてある討論のテーマにこだわらず、ベクトルを子どもの心に向けるのではなく、外に向けて、子どもたちと正しい方向で議論をして授業をしませんかと言っている。これから授業をする参考にしてほしい。

## 感想

・小学校の低学年から、道徳の本を使って教えると国の考え方が子供達に刷り込まれていく。どういう考え方が背景にあるのかを見ていかなければならないと思う。道徳の教科化で、教師や子供を一つの枠にはめ込もうとするとところから矛盾も吹き出てくると思う。私たちが民主主義の日本でどういう人間が求められているか。世界の中で日本がどういう役割を果たすのかなど、国民の中からも議論していく必要があると思いました。いろいろな資料を提供していただきありがとうございました。

・自己犠牲を押し付ける教科書であることがよくわかりました。やはり戦争への国家づくりが着々と進んでいるということがわかります。この自己犠牲は、企業にとっては残業代未払いでも我慢して働く人、原発では、危険な仕事でも身を挺してする人、軍事基地があっても国のために我慢する人というような国や資本主義体制、軍事体制に都合の良い人材を教育が作り出すことになりかねないと思いました。心の中でなく、心の外側を議論する道徳の授業をしたいと感じました。